

理事・広報副委員長に就任して

応用地質（株）常務執行役員東北支社長
佐々木 和彦



●はじめに

昨年4月に、曾根好徳（本協会 前総務委員長兼技術委員長）の後任の支社長として仙台に赴任して参りました。そして、昨年5月の定期総会において、理事に選任され、広報委員会の副委員長を仰せつかりました。

政治・経済の状況を予測しづらい今日では、公共事業の要である国土交通省の動向など関連する情報を収集し伝達することは大変重要なことです。私は、高橋克実理事・広報委員長をサポートして、広報委員会活動がさらに活発化するよう努力する所存です。また、理事として本協会発展のために、微力ではありますが尽力いたしますので、皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

●生い立ち

私は、昭和29年に岡山県で生まれました。父の仕事の関係で中国地方を転々とし、小学校、中学校、高等学校のいずれもが入学と卒業とが異なる学校でした。定年近くになった最近、クラスや学年の同窓会の話題が多く出ますが、私は転校ばかりしていたことと帰省先が異なることから、当時のクラス仲間との交流も少なくなり、ほとんど参加していません。

一方、卒業した高校の部活仲間や大学の教室仲間のように、少ない人数ではありますが「濃い」付き合いをした連中とは、学年を越えて現在でも大変親しく付き合っています。機会ある毎に、同窓会というか飲み会を頻繁に行っています。昨秋も九州に在住する大学の後輩が、学会関係の用務に引っ掛けて仙台に来てくれ、「文化横丁」で昔話に花を咲かせた次第です。

●会社生活

大学では地質学を専攻し、せっかくなら専門性を生かした就職をと考え、現在の会

社を受験しました。当時は、第一次オイルショックの影響で、多くの地質調査会社は募集を行っておらず、とても厳しい就職戦線でした。留年し、卒業までの単位を多く残した自分が入社できたことは大変ラッキーだったと思っています。

昭和52年に入社してしばらくは、ダム、道路、トンネル等の地質調査に従事していました。昭和59年に東京の事業所に転勤し、主に青森県の下北半島で電力・エネルギー関連の業務に専念することになりました。以来およそ20年間仙台の上空を飛翔したり、仙台駅を通り過ぎたりすることは頻繁でしたが、仙台に住んだのは今回が初めてです。

平成3年からは、弊社の本社で、主に人事、社長室、広報、IRなどの業務を担当しました。事業所勤務の時と異なり、労務や法律、経済、財務の話題ばかりで、自分の知識のなさとこれまでの不勉強を大いに反省しました。

そして、昨年4月仙台に赴任してきました。単身赴任であり、食事はできるだけ自炊をしています。料理を作るのは以前から好きで、結構楽しんでます。

東北地方なので夏は過ごしやすくだらうと期待していましたが、現実には「暑い!」の一言でした。異常気象でしたのでやむを得ませんが、今年は仙台らしい涼しい夏を迎えたいものです。一方、冬場はうわさ以上の寒さと雪が、「寒冷地仕様」でない私を大歓迎してくれました。年末年始の挨拶回りでは、東北地方の厳しい自然を目の当たりにしてきました。

●楽しみ

定年後の楽しみにと、実家がある所沢で4年前から菜園をやっています。農家の方と農協とが協力する指導付の体験型農園

に参加しています。20坪弱の区画が50区画あり、毎年抽選で区画が決まり、50人全員が同じ野菜を植え、同じように管理していくものです。そうしないと連作障害などが生じます。堆肥づくりも皆でやります。年末落ち葉を2トン車何杯分も集め、春まで定期的に水掛をして発酵させます。これを50区画で1年間使うのです。

野菜づくりは、その年の気候で成長や収穫が大きく左右され大変ですが、それゆえ収穫時の嬉しさ、楽しさは言葉では言い尽くせません。夏には、朝早く畑に行き、とうもろこしやきゅうり、トマトをごっそり収穫してきて、自然の恵みを堪能しています。

また、畑の仲間との飲み会も楽しさのひとつです。畑仕事をしなければ、全くお付き合いしないであろう皆さんと、畑や野菜を共通項に飲んで語ることは素晴らしいことです。



現在は単身赴任していますので、私が帰省したときを除き、日常の世話は妻と畑仲間がやってくれます。年末、煮物用に「おふくろ大根」を収穫しました。写真のように大きい大根で5キロ以上の重さがあります。手をかけた分、応えてくれる野菜づくりを、今後も「楽しみ」としてずっと続けるつもりです。

●おわりに

公共事業の長期にわたる縮減の影響で、地質調査業界は大変厳しい経営環境に置かれています。本協会の会員数も減少を続け、現在は50社を下回る状況となっています。

公共事業予算が少なくなっている今こそ、効率的な設計・施工をするために地質調査が必要なのです。そのためには、協会活動を通じて、地質調査の有用性や必要性を社会やお客様にもっともっと積極的にアピールしていくことが肝要です。

広報委員会では、本協会の活動状況や我々の地質調査技術、手法などを、お客様に紹介し、アピールするとともに、会員間の情報交換の場となる活動を行いたいと思っております。

高橋委員長を支え、より活発な委員会活動を行うとともに、本協会の発展に尽力する所存でございます。皆様方のご指導、ご鞭撻をお願いいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。